

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902603		
法人名	有限会社ヘルプ		
事業所名	グループホーム福寿草(2F)		
所在地	北海道旭川市永山2条23丁目1番22号		
自己評価作成日	令和2年2月17日	評価結果市町村受理日	令和2年4月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyvosyoCd=0172902603-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	令和2年3月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「従業員心得」の理念を事業所の見やすい場所に設置している。職員の入所時と最低年に1度の研修時、また職員会議等で共有化を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内清掃や学童防犯パトロールに参加している。近隣の旭川大学の実習生受け入れや大学生、附属幼稚園との交流、月1回華道教室のボランティアに来てもらうなど、近隣・地域との交流の機会をもつようしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福寿草通信を作成し、町内会や大学、信金等に配布し、グループホームでの活動を知ってもらったり、認知症についての情報発信するよう心がけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、施設での取り組みや行事等の活動報告をした際に、意見や助言をいただき、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者にも運営推進会議に参加してもらい、施設での取り組みに対して必要な意見や助言をいただいたり、協力関係が築けるよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人研修や外部研修、施設内研修にて、身体拘束について学べる機会を定期的に設けている。身体拘束マニュアルを作成し、いつでも閲覧できる場所に配置したり、職員会議で話題に出したりして、意見を出し合う機会を設けている。今年度4点柵の実施者が一時的に出たしまったが、家族へ働きかけ理解を促し、止めることが出来ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修や外部研修にて、虐待防止について学ぶ機会を設けている。職員会議や各ユニットでの申し送り等の際に、ケアの方法が虐待にあたらないか、管理者を中心によく吟味し、介護方法を検討している。		

グループホーム福寿草(2F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修にて、権利擁護に関する制度についての理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	常に入居者と家族の前で説明や情報提供を行い、不安や疑問点を尋ねたり、十分な説明を行い、ご理解・納得がいただけるよう心がけている。管理者だけでなく、職員にも気兼ねなく話せる体制づくりを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時や普段のかかわりを通して聞かれた要望等について共有し、毎日の申し送り時や職員会議の際に共有し対応について検討するようにしている。昨年中はご家族アンケートを実施し、アンケート結果について職員間、法人の長等と共有し、運営に反映させられるよう心がけている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎日の申し送りや月1回の職員会議にて、職員の提案や要望を聞き、必要な対応を取るようになっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員個々の状況を把握し代表者へ伝え、必要な職場環境や条件の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の時や毎朝のミーティングの際に、法人内外で実施されるスキルアップのための研修を厳選して案内している。経験年数や個人の能力を加味して、各人にとって必要と思われる研修には、代表者や管理者が研修への参加を個別に促すようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の地域密着型事業所の会議や交流会へ出席し、情報交換や意見交換を行っている。管理者はキャラバンメイトとなり、認知症サポーター養成講座を同業者と共催している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族やご本人に会い、今抱えている不安な事や要望を聞き、状況を把握できる様に心掛けている。入居後はそれらに配慮した対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に面談した際に、今後に関して不安な事や要望を確認し、ご本人、ご家族、グループホームの良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスを見極め対応し、地域包括支援センターや協力病院、居宅介護支援事業所等と連携を図り、適切な対応が行なえる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と日常生活での会話や、日々のケアの中から互いを尊重し合える関係を見出している。一緒に行なえる事は共に行き、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、各担当職員が利用者の様子を書いた手紙をご家族に送っている。又、面会時や電話等で利用者の状況や日々のケアを報告し、ご家族からアドバイスや助言を聞き入れている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人が利用者様に会いに来易いよう、いつでも面会に来られるよう準備し対応している。面会時には基本自室でゆっくり過ごして頂いている。ご本人の希望に応じて、外出、外食、ご家族との外出にも行かされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月のカンファレンスや適宜様子を伺う事で利用者同士の関係を把握できるよう情報交換して、一人ひとりが穏やかな生活が出来る様努めている。コミュニケーションを取る事が困難な方には、職員が介入し関係作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様の都合やご本人の状態により、サービス利用契約が終了しても、その後の生活が良いものになるようご家族の要望に応じて支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様のお話を傾聴し、生活に関する要望や不自由な事が無いか確認している。希望を伝える事が困難な方にも、その方に合ったサービスを提供できる様ご家族と相談し、より良いサービスに繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自のフェイスシートやアセスメントシートを活用し、利用者様の生活歴や、これまでの支援方針を職員全体で把握し易いよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の一日の過ごし方が分かるよう各担当職員が一日のご様子を生活アセスメントシートに記入、記載を行なっている。お変わりがあった際は、特記用紙に記載させて頂き、職員の周知、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、ご本人の状態に応じてご家族やご本人の意向を確認している。職員や医師の意見も参考にしつつ、支援の変更を行なう等、状況に応じた介護計画を作成し、サービスを提供している。サービス担当者会議で今後の支援について話し合う場を設けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常時、状態変化に対応できるよう個別記録を取っている。又、会議や、日常等で介護方針に変更があった場合は、全体で把握できる申し送りノートを活用し、職員間で努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望や状況に応じたサービスを提供出来る様、随時職員間でニーズを把握し、情報共有を行っている。又、それにより個別外出等のサービスに役立てている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、地域の大学のボランティアの方による、クリスマス会や幼稚園のお遊戯会を施設内で行って頂いている。又、大学祭の見学で利用者様と一緒にいき、学生とお話する等、積極的に関わりを持てる環境作りを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月提携病院から看護師が訪問している。ご本人の体調に変化が無い確認し、問題あれば受診対応行なっている。又、休診日や夜間等でご本人の体調の変化が見られた時は看護師に連絡し、指示を仰いでいる。		

グループホーム福寿草(2F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回の訪問看護時に必要に応じて、受診、薬の処方等を医療機関に確認、相談したりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が不自由な思いをしない様、ご家族様や医療機関と共に情報交換し行っている。入院時には医療機関からの説明をご家族と共有し、入院中、退院後の生活をどのように支援すべきか確認している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人が安心して穏やかにホームで生活できる様、指針を作っており、それに基づき、ホーム、家族、医療機関とでチームとして支援できるよう取り組んでいる。看取り期等ではご家族にも希望をお聞きし、ご本人らしく最期を迎えられるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事故の発生時適切に行動ができる様マニュアルを壁や電話脇に提示している。又、事故やヒヤリハットをレポートにし、職員間で情報の共有をし、今後どうするか会議で話し合いをしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、消防署の指導や研修の参加により非難経路の確認や災害時の対応の仕方、近隣との協力体制を作っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活での会話や介助の際にも本人の気持ちを尊重し、配慮した声掛けをするよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様がその人らしく過ごせるよう、お話を傾聴し、自己決定出来るよう支援している。又、自己決定が難しい利用者様に対しては状態を把握し、希望に添える様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの体調や能力、希望に合わせて、安心して楽しく暮らして頂ける様支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問美容があり、ご本人の希望を聞き、カット、カラー、パーマを行っている。又、毎朝の洗顔、髪型のセット、適宜での爪切りを行っている。		

グループホーム福寿草(2F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本は配食サービスで食事を提供しているが、利用者様におかずの盛り付けを行って頂く等、食事提供に参加して頂いている。又、月一程度ホームで手作りの昼食を提供したりと食事を楽しめるよう支援を行なっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の嚥下状態や体調に合わせて、米飯やお粥、副菜は食べやすい大きさに刻んだり、ペーストにしたりと支援を行なっている。食事摂取量や水分量は随時チェック表に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の出来る範囲で毎食後に見守りや介助により口腔ケアを行っている。義歯を使用されている方は毎晩洗浄剤で消毒している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄間隔を記録、把握し、その都度声掛けてトイレ誘導、介助を行っている。自分からトイレに行けない方もトイレで座って排泄出来るよう対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事量と水分量には十分注意し、摂取量が少ない方には出来る限り水分摂取を勧めている。排便が見られない時は主治医と相談し内服薬を使用したり、自然食品(オリゴ糖やヨーグルト)等を使用し促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週4日(内2回)入浴できる機会があり、ご本人の体調や希望に応じて、日にちを変えて入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や体調に合わせて昼食後等で声掛けを行い、居室で休んで頂いている。部屋の照明や空調、室温に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の為、必ず職員2人以上で薬の数や日にちを確認してから服用して頂いている。又、副作用、用法や用量の確認を行い、理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションは無理のないよう利用者様の状態に合わせて楽しんで頂いている。一人ひとりの出来る範囲で洗濯物たたみ等行って頂いている。		

グループホーム福寿草(2F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その時期に応じて、季節を感じる事の出来る場所に見学に行っている。又、個別外出等を利用し、出来る限り外出する事が出来るよう環境作りをしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別外出等で本人がお金をお支払いしたい場合等は、職員付き添いのもとでお支払い頂いている。又、お店に行けない利用者様は希望する品を尋ね、職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望する利用者様は、職員介入の下で相手とお繋ぎしている。又、希望があれば手紙を書くことの出来ない利用者様にも代筆等の手段により、やり取りできるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングやトイレに写真を飾り、居心地の良い様工夫したり、季節ごとに行事のポスターを壁に貼る等、季節を感じられる飾り付けをしている。居室においては光量、室温を利用者様に合わせ、その都度調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互い普段から近くにいる馴染みの関係の方同士と一緒に過ごせるよう支援したり、一人であることを好む利用者様には一人で作業できる空間作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には、ご本人の使い慣れた家具等を持ってきて頂き、普段使うものもご本人の希望に合わせて調整している。又、ご家族との写真を飾り、思い出を大切にできるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は一人ひとりが障害物を把握したり、バリアフリー化する事で移動の際に安全に確保できている。又、日常生活で危険があるものを排除できるよう努めている。		